



ゆたか福祉会キャラクター
ゆたかめくとみらいちゃん

障害者の ゆたかな **未来** をめざして



「チューリップ」なるみ作業所 萩 真由美さん
※紹介が9ページにあります。

CONTENTS

- ▶ 自己申告書の取り組み P2～3
- ▶ 私と戦争と平和 その1 P6～7

2026年3月15日 毎月1回15日発行 一部200円（法人会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます）

発行 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
〒457-0852 名古屋市南区泉楽通四丁目5番地3
TEL 052-698-7356 FAX 052-698-7358

ゆたか福祉会

検索



ゆたか福祉会HP



公式 Xアカウント



愛知県ファミリー・
フレンドリー・マーク

「自己申告書」に観る 「ゆたか」の現在地と未来

理事長 後藤 強



ゆたか福祉会では毎年、職員一人ひとりが日々の業務や職場環境を評価し、事業所や法人に対する要望等を記入する「自己申告書」を実施しています。

2025年度も、全体の9割近くにあたる550人の職員から回答があり、数多くの声が寄せられました。

今回の申告書には、仲間との関わりに喜びを見出す言葉がある一方で、人手不足や業務負担への深刻な不安、そして組織のあり方への厳しい指摘も含まれています。

本稿では、これらの声を整理し、私たちが直面している現状と、今後の課題について共有させていただきます。

1 私たちが大切にしているやりがい

多くの職員が、仕事に対して「やりがいを感じている」と回答しています。その原動力となっているのは、やはり「仲間」の存在と輝きです。

〇 仲間の変化と喜び

「仲間たちの外出や生活面の支援にやりがいを感じている」「ステップアップしていく様子や、地域で生活を送れるようになっていく姿に喜びを感じる」といった声は、この仕事の根源的な魅力を物語っています。

〇 地域とのつながり

子ども食堂の開催により地域の方々との繋がりができたことや、能登の復興支援への参加を通じて、社会に貢献している実感を共有できたことも、大きな自信となっています。

〇 支え合う職場風土

「職場の人間関係が良く、不安なことをすぐに相談できる」「子育て中や急な体調不良にも、職場全体でフォローし合える雰囲気がある」という声も多く、お互いを支え合う気持ちは大きな柱となっています。

2 深刻化する人手不足と業務過多

一方で、申告書の至る所から聞こえてくるのは、「圧倒的な人手不足」への悲鳴です。

〇 職員体制の限界

「人が少なく、一人ひとりの業務負担が増えている」「現場を回すだけで精一杯で、仲間にくっくり向き合つことができない」という現状が改めて浮き彫りになりました。

特に男性職員の不足を訴える声が目立ち、力仕事や同性介助の面で特定の職員に負担が集中している現状があります。

〇 管理職の疲弊

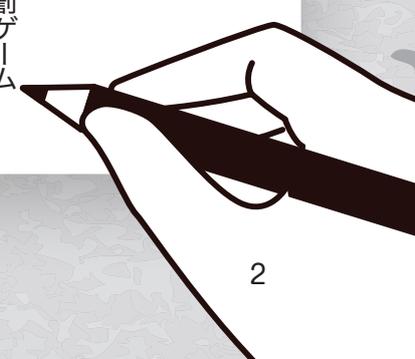
「管理職になることは罰ゲームのようだ」という厳しい言葉も寄せられました。現場支援と管理業務の両立に悩み、残業が当たり前になっている状況。管理者の質により、事業所運営に差が生じるという組織的な課題も指摘されています。

〇 支援の質の低下への懸念

職員不足は過重負担という問題に留まらず、「身辺支援と安全確保で手一杯になり、ゆたかな実践が難しくなっている」「未経験者にOJTを行う余裕がなく、現場の負担が増している」といった、支援の質を脅かす事態も招いています。

3 職場環境と人間関係

人間関係については、良好な関係性を評価する声がある一方で、深刻なトラブルやコミュニケーションの欠如を訴える回答も散見されました。



特定のハラスメントや不和

特定の職員からの無視や嫌味、高圧的な言動に悩む声、さらにはパワハラと感じる事例も報告されています。これは職員のメンタルヘルスを直撃し、離職の大きな要因ともなっています。

正規とパート職員の意識差

「正規職員とパート職員の責任感に乖離がある」という意見や、逆に「パートばかりに頼り、正規職員としての役割が見えない」という不満もあり、雇用形態を超えたチームづくりが課題です。

情報の共有不足

「短時間勤務者への情報共有がまいち」「会議に参加できない職員との温度差がある」など、情報の目詰まりを解消するための工夫も求められています。

4 法人・事業所への具体的な要望と改善の提案

回答では、より働きやすい職場にするための具体的な提案も多数寄せられました。

待遇改善

物価高騰に伴うガソリン代（通勤手当）の見直しや、土日祝日の手当、年末年始等の時給アップを求める声。また、年間休日の増加を求める声も少なからずありました。

ICT（情報通信技術化）と業務効率化

「手書きの記録が多く、時間がかかる。電子化を進めてほしい」という要望は、業務負担を軽減するうえで、今後の重要なポイントとなります。

専門職の役割明確化

栄養士や調理師など、専門職がその専門性を十分に発揮できる環境づくりと、支援員との適切な役割分担についての議論も必要です。

建物の改善

雨漏りや設備の老朽化、バリアフリー化の遅れなど、仲間の生活環境と職員の労働環境を改善するための、ハード面での手当ても急がれます。

5 寄せられた声をどう活かしていくか

今回の自己申告書の結果は、ゆたか福祉会が抱える課題を浮き彫りにしました。そして同時に「もっと良い支援をしたい」「より良い職場にしたい」という職員の願いを再確認する機会ともなりました。

法人は、これらの声を真摯に受け止め、以下の取り組みを強化していかねばならないと考えています。

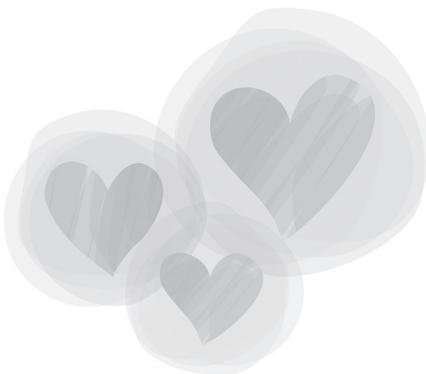
- (1) 人材確保と育成の抜本的見直し
 - 単なる補充に留まらず、若い職員が夢を持てるキャリアパスの構築と、管理職を組織的にバックアップする体制の整備。
- (2) 労働環境の整備
 - ICTの導入による業務効率化、待遇面での改善を計画的に進め、心身ともに余裕を持って働ける環境の整備。
- (3) 対話と権利擁護の徹底
 - ハラスメントを許さない組織風土を醸成し、職員一人ひとり

の権利と尊厳が守られるよう、研修やヒアリングの継続。

(4) 仲間の高齢化・重度化への対応

ライフステージの変化に合わせた住まいや日中活動の場を、第7期総合計画をとおして実現していく。

自己申告書に記入された一つひとつの言葉は、ゆたか福祉会をより良くするための貴重な提言です。「誰もが安心して、自分らしく働ける」そんな職場を一歩ずつ創り上げていきたいと考えています。今回、回答くださったすべての職員に感謝を申し上げます。



ゆたか生活支援事業所かさでら ひいらぎホーム地鎮祭

2025年12月8日、「ひいらぎホーム」の移転に伴う建設にあたり、名古屋市南区粕島町（粕島ホーム隣地）にて地鎮祭を行いました。当日は関係者に加え、なかま2名にも参加いただきました。

神主様によるお祓いや祝詞のあと、鍬入れの儀などを通して工事の無事と、ここで暮らす皆さんの穏やかな毎日を祈願しました。現地はまだ何も無い状態



のため、参加されたなかまの皆さんはまだ実感がなく、不思議そうな表情で見つめていました。

現在の「ひいらぎホーム」は、賃貸マンションを借りての運営で、建物も古く、住環境の面でも改善が必要な状況でした。今回の建設はこうした課題を解決し、より安心して過ごすことのできる住まいを整えるための大切な一歩です。

新「ひいらぎホーム」は、今年7月頃の完成を予定しています。現在、賃貸マンションで暮らしている皆さんが、そのまま移転して生活される予定です。

これからも地域の皆様に見守っていただきながら、安心して暮らし続けることのできるホームとなるよう取り組んでまいります。

ゆたか生活支援事業所かさでら

所長 杉本雅明

《新規事業》緑区グループホーム進捗状況

新しい事業所名は

「ホームふらっと」!

●「ホームふらっと」に込めた思い

新しいグループホームの名称が「ホームふらっと」に決定しました。地名「平手」の「平」、対等な「flat」、「ふらっと」集う場という三つの願いが込められています。

●建設工程および設備整備の現況

2025年9月の着工から順調に推移し、現在は外壁工事と色彩計画を完了しています。3月25日の引き渡し、4月7日の竣工式に向けた内部設備工事や備品選定、搬入時期の調整等の最終段階です。建築や備品整備と並行し、ソフト面の体制構築も取り組んでいます。

●地域事業所との運営連携と人材育成

運営面では「ゆたか希望の家」と連携し、クックチル給食の導入や短期入所事業でのOJTを推進中です。生活空間の備品選定には「なるみ作業所」「ゆたか希望の家」等の実践事例を反映し、職員には「強度行動障害支援者養成研修」の受講や、入浴・排泄等の実務実習を予定しています。

●入居者調整の完了状況と直近の重要課題

入居調整は、1階の「ゆたか生活支援事業所みどり」利用者の再編、および2階の強度行動障害向け選考がともに完了しました。また、選考から漏れた方々へは体験利用を通じて「意思形成支援」に取り組み、将来の住まいの場を選択する意思決定に繋げていきます。今後は4月以降の運営体制整備と、事業所間連携や入居開始時期の調整等が課題となります。



平手グループホーム建設委員会 責任者 倉地伸顕

快適な暮らしを創ろう！ リフォーム工事完了

【ゆたか生活支援事業所みなみ】 〈グループホームエール〉

2015年の開所以来、使用してまいりました機械浴槽も、本年度11年目を迎え、故障の頻度が増えてきました。

取扱業者様からも「該当部品の供給がまもなく終了します」との助言を受け、不安を感じておりましたところ、このたび愛知県共同募金会様の助成金申請のお話をいただき、申請の機会に恵まれました。



愛知県共同募金会様助成金活用

あわせて、設置から10年が経過した浴槽下部は黒カビに覆われ、床材の劣化も見られたため、設計士様のお力添えをいただきながら、張り替えの手配を進め、工事に着手いたしました。

そして2025年11月、新しい機械浴槽が無事に搬入されました。利用者の皆さまは、快適な入浴姿勢を保ちながら温かなお湯にゆったりと身体をあずけ、安心して入浴を楽しんでおられます。

一時は先行きに不安を抱えておりましたが、愛知県共同募金会様をはじめ、多くの皆さまの温かいご支援とご協力により、なかまの皆さまの日常が再び取り戻されました。今後も大切に活用させていただきます。改めて心より感謝申し上げます。

〈ホームのみり〉



ホームのみりは、2006年4月に現在の建物が完成してから、今年で20年を迎えます。設備の老朽化や使われていない設備があること、そして「ホームで暮らす仲間に、より合った住環境にしていきたい」という思いから、昨年12月にリフォーム工事を行いました。

今回の工事では、トイレ便座の交換や汚物槽の設置、床の張り替え、洗面台の交換、シャワールームの建て替えなどを実施しました。リフォーム後、なかまからは「トイレがきれいになった!」「洗面台の高さがちょうど良くなった」など、喜びの声が上がっています。

なかまも年齢を重ね、これまで以上に環境整備が必要となる場面が増えてきています。今回のリフォーム

のように、今後もなかまがより過ごしやすい環境を整えていけるよう、考え続けていきたいと思っています。

【デイサービス宝南】

デイサービス宝南では、愛知県補助金を活用し、長年使用してきた機械浴設備の入れ替えを行いました。利用者の皆さまに引き続き安心して入浴していただけるよう、浴室内の動線やレイアウトの大きな変更はせず、これまでの入浴環境を大切にしています。

新しい機械浴は移乗用の椅子が軽量化され、職員にとっても扱いやすく、利用者の状態に合わせた入浴介助がしやすい設計となっています。

今後も看護職・介護職が連携し、一人ひとりに寄り添った入浴支援を心がけながら、安心して快適なサビスを提供してまいります。

愛知県補助金活用



シリーズ

「私と戦争と平和」

その1

今回、広報誌では「私と戦争と平和」をテーマに、関係する皆さんの「声」を掲載するシリーズを企画しました。これは昨年11月に「平和の取り組みから学び・考える」をテーマに開催した職員研修で、講師の皆さんが話された「明日からは語り部」の具体化でもあります。第1回目の今回は、顧問の鈴木清覚氏にお願いしました。

「私と戦争と平和」

顧問 鈴木清覚

このテーマについては、今日の世界と日本の動向において益々重要となるテーマであり課題となっていると思う。

しかしながら、私には残念ながら直接にこの課題にこたえることはできない。なぜなら、私は戦後の昭和23年生まれで、戦争を直接体験してはいない。しかし、間接的に、戦争によって家族が被った被害の体験は甚大なものであった。

私の家族は、両親と7人の子供という当時よくあったいわば大家族で、私は5番目の長男として誕生した。戦前戦後に多くあった「貧乏人の子沢山」の家族であった。私はい

ろいような事情もあって祖母のもとにひきとられ、育てられた。戦争の直接的な体験と被害を受けたのは父であった。

父は大戦の後半近くに半田の連隊に招聘され、その後南方戦線に送られて、過酷な戦争体験をしたのとことである。しかし、幼い私にその体験を直接に話すこと、聞くことはなかった。私が知っているのは、多くは親戚の人々から聞いた話である。

父の戦争体験の最後は、南方戦線においてフィリピンでつかまり、日本に帰ってきている。厳しい戦争体験がもとで傷つき、帰ってきてからは病気がちで、しばらくしてから病院に入院となり、私が小学校5年生の時に亡くなっている。

母は7人の子供を抱え、一家の働き手を戦争に徴兵された。父は敗戦

後に帰ってからも病気がちであり、働き手とはならなかった。母はその分、女手一つで、日雇い労働の仕事や海に潜る海女の仕事、海産物を売り歩く漁商の仕事など、あらゆる仕事をを行い、子供たちを守り育ててくれた。

本当に貧乏と苦勞の連続であったと思う。姉たちが学校を卒業して働き始め、家に仕送りがされるようになり、我が家は経済的に一息つくことができた。

私たち家族のみならず、あの時期は大なり小なり、直接・間接に戦争による被害を受けた生活であったと思う。あらためて戦争は、すべての人々に困難と不幸をもたらすことになる。

さて、今日どのような立場の人でも戦争について手をふって賛成す

る人は少ないと考える。しかし、実際にはアメリカをはじめとして他国との関係において巻き込まれる可能性は大いにあり得ることである。事実、来年度予算における軍事予算の異常な増大は、その可能性を高めている。





今日においては、世界情勢をめぐる世界と日本の現実、終わりの見えないウクライナや中東のガザ地域をはじめとして、次々と戦火はひろがってきている状況に見える。

国連の「国際障害者年」における決議に示されているように、戦争は、人間の生存をおびやかす、世界で障害者を生み出す最大の原因である。「平和を希求する機会としよう!」との呼びかけは、障害者問題に取り組み我々の重要な使命である。

一昨年、ノーベル平和賞を受賞した被団協のみなさんをはじめとして、世界の圧倒的な人々が願い、希求しているのに、なぜ世界からいつまでも「戦争」は無くならないのか。

いろいろと考えるのに、私は人間の本质にかかわる性質である「欲望」と闘争に根差すものではないかと感じることもある。とりわけ、国の指導者らにそうした強い衝動が現れる。

その強い欲望は、領土の拡張欲である。戦前の日本では、朝鮮半島や中国の満州、アジアの南方諸国への戦争はその典型である。今日的には、ロシアのウクライナ戦争、イスラエルのパレスチナ戦争、さらに最近ではアメリカの国際法やルールを無視したベネズエラやグリーンランド問題など、目を覆いたくなる事態が進行している。

さらに長い歴史と多くの実績を積み上げてきた国連をはじめ、世界組織への攻撃・排除は許せないことである。こうした横暴を私たちは許してはならない。

今度の我が国における総選挙においても、外国人の排斥など、トランプ大統領と同じ主張がなされてきているのに、危機を感じるのはわたくしだけだろうか。

今、ゆたか福祉会の関係者、そして日本、全世界の人々は、人間のもう一方の本質である「集団での力を合わせて、戦争の撲滅や他者への思いやりや共感を発揮」して、地球の良好な維持と人類の生存のために、努力すべき取り組みと運動に立ち上がるべきであると感ずる。

地域にひらく一歩

「ゆたかめ食堂」はじまりました!



2月15日、ケアサポート宝南（グループホーム宝南の家・デイサービス宝南・ケアサポート宝南）にて、かねてより準備を進めてきた「ゆたかめ食堂」を初開催しました。午前中は認知症カフェ「オレンジカフェゆたかめ」を行い、その後、子ども食堂をオープン。構想から約1年、ようやく第一歩を踏み出すことができました。

当日は約30名の方にご参加いただき、ボランティア7名とともにカレーライス、サラダ、フルーツポンチを提供しました。フルーツポンチ

の缶詰はナゴヤフード株式会社様より、お持ち帰り用のお菓子はサンシャイン KYORAKU 南店様よりご寄付いただき、地域の皆さまのご支援に支えられての開催となりました。

近隣ホームのなかま達や、ご家族連れの姿もあり、世代を超えた温かな交流の時間が生まれました。嬉しそうにお菓子を選ぶ子どもたちの笑顔に、私たちも胸がいっぱいになりました。

まだまだ不十分な点も多い手探りのスタートでしたが、回を重ねる中で運営側も経験を積み、より安心して楽しい取り組みへと育てていきたいと考えています。会場の都合上、一度に多くの方をお迎えすることはできませんが、これからも月1回の開催を目標に、地域に開かれた居場所づくりを続けていきたいと思っております。

毎月第三日曜日に開催予定です。どうぞお気軽に「オレンジカフェゆたかめ」「ゆたかめ食堂」へお立ち寄りください。皆さまとお会いできることを楽しみにしています。

デイサービス宝南 阿部 直美

ゆたかな未来をめざしましょう

子ども食堂

ゆたかめ食堂

2026年2月15日
OPEN

毎月3日曜日
PM12:00~13:30

名古屋南東区元塚町3-1-1
名イオンビズ南東2階
※ボランティアも大募集しております!

子ども 無料

大人 300円

障害者福祉が65歳以上 200円

※お祝い金(500円)は別途です。

主催: ケアサポート宝南の家
協賛: 福祉 阿部 直美 TEL: 052-613-5081

常勤及びパート職員研修開催!

はじめに

1月23日(金)法人本部大会議室にて、「常勤及びパート職員研修」が開催されました。この研修は、コロナが猛威を奮う前年の2019年度からスタートし、コロナが落ち着いた2023年度に再開。今年度で4回目を迎えました。



研修のねらい

大きく分けて二つ挙げられます。一つ目は「この間の法人全体の変化(理事長の交代、新ハンドブックの完成、第7期総合計画の初年度等)」を伝え、参加した皆さんに法人事業についての理解を深めてもらうこと。二つ目は「パート職員だから」という視点ではなく、適切なコミュニケーション方法や利用者支援について学び、「日頃の業務に対するスキルアップを図る」ことです。

笑顔が溢れたアイスブレイク

今回は男女各4名ずつ8名の皆さんが参加されました。勤務年数としては1ヶ月の方から、一番長い方でも4年と比較的短く、運営スタッフも含め、初めて顔を合わせる方ばかりでした。

開始前は少し緊張している様子も伺いましたが、研修に入る前に行ったアイスブレイク(テーマ「お

勧めたい場所」を通じ、場の雰囲気が一気に和んだように感じました。一人ひとりが自身の趣味や地元のお勧めなどを出し合い、「相手を知る」ツールとして体験することことができました。

研修内容

当日の研修は、まず理事長から「利用者とこれまで向き合い、大切にしてきたこと」というテーマでお話をしていただきました。「自身が持っている価値観や、常識だけでなく仲間たちを見ないこと」「仲間の何気ない行動に、職員の働きかけるヒントが隠されている」と語られ、参加していた職員一人ひとりが真剣に耳を傾けている姿が印象的でした。

続いて理学療法士の今村さんからは「法人内で行っているリハビリ内容や今後の展望・課題について」、須澤所長からは「利用者との関係づくり」、原田所長からは「虐

待防止研修」の内容で報告を行いました。

「利用者との関係づくり」では、言葉遣いやリフレーミング(言葉の言い換え)の効果について、また「虐待防止研修」に関しては、報告書や事例を用いてグループワークを行い、それぞれ意見を出し合い、理解を深めました。

おわりに

この間法人では、職員不足が課題に挙がっています。このような研修を通じ、参加した皆さんが、より一層、法人の魅力や働き甲斐を見つめるキッカケになったり、「正規職員になって、頑張りたい!」という気持ちが生えることに期待しています。

研修部スタッフ

リサイクル港作業所 河村聡



「チューリップ」

～なるみ作業所～ 荻 真由美さん

表紙の作者紹介

今回の作品は、随時開催している創作レクで取り組みました。テーマは「夏を描こう」。夏にちなんだモチーフを用意していましたが、荻さんは「今、一番描きたいもの」を中心に仕上げていきました。色もカラフルで素敵な作品となりました。

絵を描くことが好きな荻さん。今回の作品にもおなじみのバナナとお花が描かれていました。花のモチーフの中に顔の表情を描くと、なんだか笑っているように見えます。

職員や利用者の方と話すことが大好きな荻さん。暗い表情をしている方には「どうしたの?」と心配し、笑っている方には「自分も話に入りたい!」と言わんばかりに大声で笑います。その笑顔と人柄は、荻さんの素敵なトレードマークです!

順不同 / 敬称略

伊藤 智恵子
野田 茂明
渡辺 善之
渡辺 きよし
森 信代

一
般
寄
附
(
1
・
2
月
)

賛助会員新規加入者
更新者ご芳名一覧

(1月6日～1月23日 手続き分)

森 重徳

竹原 正明

数納 幸子

野村 文男

広報・518号

2026年3月号(2026年3月15日発行)
定価1部200円
法人協会員・賛助会員は会費の中に購読料を含みます
発行・編集 / 社会福祉法人ゆたか福祉会
印刷 / 株式会社東海共同印刷

法人協年会費・賛助会費・寄附金など福祉会への申し込み、ご送金は

法人協年会費 = 年間1口6,000円、
賛助会員(個人1口3,000円、企業団体等1口5,000円)

●銀行口座 名義はいずれも社会福祉法人ゆたか福祉会

- ・三菱UF銀行 柴田支店 普通預金 291-884
- ・あいち銀行 鳴海中央支店 普通預金 150-425

●郵便振替口座 00820-8-54026 社会福祉法人ゆたか福祉会

※初めてお振込をいただく方は、お手数ですが
法人本部(052-698-7356)へご連絡ください。



1月

- 6日(火) トータル人事システム検討委員会
- 12日(月) 事業運営推進会議
- 13日(火) AI活用学習会
- 16日(金) 新管理職合同研修
- 20日(火) 広報・ホームページ編集委員会
- 23日(金) 常勤及びパート職員研修
- 26日(月) 研修部会議
- 28日(水) 副所長会議 / 強度行動障害者支援者ゼミ
- 29日(木) 消費税訴訟判決期日
- 30日(金) きょうされん経営管理者総合研修会(～31日)

その人らしく働く暮らし

Vol.132

仲間

「いつもニコニコ、周りも笑顔にする平岩さん！」

ゆたか作業所 平岩孝之さん



平岩さんはご自宅での生活から2024年9月、地域生活支援拠点事業所まーぶる（まーぶるホーム）に入居されました。まーぶるホーム入居前の8月にゆたか作業所デイ現場の体験利用をされ、9月9日から週2日の利用を始めた。

現在61歳！初めは慣れない環境もあって、自分の思いを出されることは少なかつたですが、今では予定決めでも「ボウリングやるよ」「お菓子が良いなあ（お菓子が食べられる活動が良いなあ）」と自分のやりたいことを表現されています。体験利用の際は創作で貼り絵をしていただき、素敵なお花を作り上げられました。慣れてきた今では、得意な色塗りや貼り絵をして、写真入れやお菓子入れなどいろいろなものを制作しています。どんな活動にも笑顔で参加

される平岩さんですが、好きな活動を尋ねると「ボウリング」を挙げられます。遠くからでも正確にまっすぐ投げ、ストライクを何度も出されるほどの腕前です。「上手だね！」と職員から言われると、「上手だろ」とにこやかに返してくれます。

そんな平岩さんの今後の願いは、「ヘリコプターに乗ること」だそうです。ホームでも作業所でも、歩行や階段昇降のリハビリを頑張られています。

松下隼也



職員

「異なる特性を持つ仲間と向き合うために」

ゆたか生活支援事業所なるお 小川花音



私は今年度ゆたか福祉会に入職し、ひとつのグループホームの担当職員という立場の責任と向き合いつつ支援をしてきました。

大学時代、一人一人のニーズを汲み取り受け入れることや、ニーズに応える支援方法を考えていくことなどの大切さを学びましたが、実際に仲間と向き合っていく中で、その大変さを実感した1年でした。

現在私が担当職員として勤めているホームには、男性3人、女性2人の仲間が生活されています。5人それぞれに違った特性があり、自分自身のことをよく話し、悩み事や欲しい物などを話してくれる仲間もいれば、話すのが苦手な仲間もいます。この1年を振り返ると、「あまり自ら悩み事を打ち明けない仲間と向き合う時間が少なかった」と感じます。

今後、やっていきたいと考えている事は、仲間から相談されるのを待つのではなく、自ら歩み寄

ることです。私はこの1年で、仲間が職員に相談をしてこないことは、「困っていることがない」ということとイコールではない事を実感しました。

「言葉での意思疎通が可能な方たちが多い」という点に甘えていたように思います。「本人からの表出を待っているばかりではない」と考えるようになりました。

2年目以降は、1年目よりもっと積極的に、仲間と向き合っていくとしたいと考えています。また、仲間のニーズに応えるための働きかけを自ら提案したり、仲間との関わりを深めていく事で、自分自身の成長にもつなげたいです。

